



キャンパスに 賑わいが戻ってきました

突然のコロナ禍から3年目の春。
まだまだオンライン授業は続いているものの、
キャンパスには学生の賑わいが戻ってきています。
そしてその一方で、メンストの大工事などは計画通り進行。
正門も新しくなりました。新たな15号館も竣工間近。
コロナに負けず、キャンパスは元気です。



ソフィア会最大のイベント

ASFの45年

ASF（オールソフィアンの集い）が始まったのは1977年。それから45年。ほぼ半世紀といってもいいその間、このソフィア会最大のイベントにはさまざま人がかかわり、そして時代を反映して絶えずその姿を変えてきました。ASFを振り返ることで、ソフィア会の歴史を見ることもできます。

2万7,000人がキャンパスを埋め尽くした2013年

ASFで、四谷キャンパスにもっとも多くの人々が詰めかけたのは2013年。上智大学創立100年の年でした。その数は2万7,000人。その直前の2012年は7,000人程度。それ以前のASFは毎年4～5,000人程度だったことを考えると、この2013年はASF史上特筆すべき年だったといえるでしょう。

企画自体は、その後のASF（2020年からのオンラインASFを除けば）とほぼ変わらないものだったとは言えますが、大学創立100周年ということもあって事前準備からの参加人数が格段に違いました。実行委員長を務めた濱田大輔（2004理機）さんのリーダーシップのもと、多くのプロジェクトが同時並行の形で綿密な打ち合わせを重ねていきました。

たとえば、「校歌を歌ったことがない学生が多い」ことを憂いてこのASF2013に向けて立ち上げた「校歌合唱実行委員会」は、卒業生のグリークラブOB合唱団、女声合唱団OG会をはじめ、現役学生の「歌う」団体すべてに声をかけ、グランドフィナーレでの「校歌の1,000人合唱」を目指して準備を進めました。

歌の団体といっても、校歌とは無縁の団体もあり、校歌を歌ったことがない学生が多かったのは事実。しかし、混声合唱団アマテウスコールのOBで、現代日本の合唱界随一の人気作曲家といわれる信長貴富さん（1994文教）に新たに校歌の編曲を依頼。その楽譜をクリアファイルにして大量に売りさばいたりして準備を進めました。

ほかにも、100周年に合わせて新たに立ち上げたプロジェクト、そしてもちろん既存の各ソフィア会登録団体もそれぞれ準備を進め、その結果四谷キャンパスに2万7,000人もの人を集めることができたのです。



2013年のグランドフィナーレでの「校歌1,000人合唱」。一緒に校歌を歌おうと、メンストが人で埋め尽くされました



1977年、SJガーデンで行われた第1回の「オールソフィアンのつどい」。参加者にはこのはっぴが配られた

家族連れのホームカミングデーに発展

この2013年のASFがきっかけになってか、その後のASFは常に1万人以上が参加するソフィア会の一大イベントの座を獲得するわけですが、ASFが誕生した1977年にはわずか200人程度の参加者が会場となったSJガーデンに集まったただけでした。これについては、「ソフィア会80年のあゆみ」（ソフィアンズナウNo.182、2017年秋号）でも若干触れています。



第1回ASFの入場券。参加費は3,500円



1989年のASFのチラシ。抽選会の特賞はフォルクスワーゲンの「ゴルフ」。その他にもハワイ旅行券、沖縄往復旅行券など、豪華な賞品が並んでいます

したのは事実です。1980年代になると、卒業生だけでなく「ご家族と一緒にキャンパスに来てください」という呼びかけをするようになり、メンストにはミニSLが走ったり、あちこちにキッズコーナーが作られたりと、卒業生とその家族を意識したASFへと姿を変えていきました。当時は、学生の姿はほとんどありませんでした。

抽選で車も当たった高度成長時代

ASFの歴史をもう少し見ることにします。

1980年代から1990年代初めにかけて、ASFは日本の高度経済成長期の後押しもあって、どんどん“派手”になっていきます。当時は、卒業後20年を迎えた年代が実行委員会を構成する決まりとなっており、新しく実行委員になった人たちは、競って前の代を上回る企画を出すような雰囲気があったようです。

1989年のASFのチラシには、抽選会の賞品として、フォルクスワーゲンの車（ゴルフ）やハワイ旅行、沖縄旅行などが並んでいます。自動車会社や航空会社などに努めている卒業生が賞品を提供していました。当時は、ASFの参加者は3,000名ほどの時代ですが、その勢いは、現在を凌駕するものがあつたようです。

もうひとつ、ASFを拡大発展させた要因として、教室での飲食を可能にしたことがあるとの指摘もあります。それまでは、クラブ・サークルのOBOG会や学科集会なども、その会場（教室）では飲食できず、当時の9号館地下カフェ（現在のアクティブcommons）やSJガーデンのみ可能という状況でした。

80年のあゆみ」には「任意のソフィア会が、いわゆるソフィア会本部と一体となって同窓会活動を盛り上げるきっかけになったのは、1977年5月28日（土）に開催された「オールソフィアのつどい'77」といえるでしょう」とあります。

当時はまだ、学部・学科同窓会、各種ソフィア会、地域ソフィア会などの登録制度はなく、独自に活動していたクラブ・サークルなどのOBOG会などが、このイベントに合わせて学内で総会・懇親会などを開催。最後にSJガーデンに集まり、参加者は記念品の特製はっぴを着て、各ソフィア会の垣根を越えオールソフィアんとて交流しました。そのため、このイベントには「はっぴフェスティバル」というタイトルもついていました。80年のあゆみには、「第4代ソフィア会会長、渡辺慎介氏の時代ですが、当時のヨゼフ・ピタウ学長の力を忘れることができません」というくだりがあります。特にピタウ学長のものでソフィアとしての一体感が生まれ、ソフィア会としてまとまろうという機運がこの第1回ASFを後押ししたようです。

しかし、この1977年の「オールソフィアのつどい」が、1980年代から1990年代にかけて急速に発展・拡大していくこととなります。現在は、学生と卒業生が一体となった「オールソフィア」という認識が主流になりつつありますが、当時は卒業生とその家族を含めての「オールソフィア」、そしてそのホームカミングデーという感覚が強かつた



同じく、1989年のASFのチラシ。今と同じようにASFに合わせてさまざまな団体が集会を開いています

それに対し、1990年のASFで実行委員長を務めた和泉法夫（1970理機）さんは大学にかけあい、「教室での飲食を伴う同窓会を開催する」許可を大学から取り付けます。和泉さん自身「ASFへの参加者を増やすため、それまで有料だった参加料を無料にし、OBOG会やクラス会などの会合をASFの日に集中させるため、教室を開放して飲食を可能にしたのです」と語っています。それによって、2万7,000人を集めた2013年のような、ASFのひとつの隆盛をみることになります。



1992年のASFのグランドフィナーレ。「長野智子さんの司会で
行われた抽選会ではメインストリートを入垣が埋め尽くした」と、
当時のソフィアンズナウが伝えています

新時代を模索し始めたASF

そして現在、2020年春に突然世界を騒がす新型コロナウイルスの感染拡大によって、ASFも大きな曲がり角を迎えています。四谷キャンパスでの開催が不可能となり、ASFの長い歴史の中でももっとも困難な時代を迎えているといっても過言ではないでしょう。

今は、実行委員会は卒業20年目の代が務めるという時代ではなく
なっていますが、多くの現役学生の協力によって、四谷キャンパスは

閉鎖したまま、2020年、2021年はオンライン開催となりました。これについて、2021年のASFレポートは次のように書いています。

「ソフィア会は5月30日（日）、公式行事として「オールソフィアンの集い（ASF）」を開催しました。コロナウイルス感染予防のため今年も昨年にも続きオンラインでのバーチャル開催となりましたが、同時に3つのプログラムをYouTubeやFacebookで配信するなど、内容は大幅に進化。国内はもとより、海外からも多くのソフィアンが参加し、視聴者は延べ1万人を超えました。またこの3チャンネルと並行して当日は学部・学科同窓会や各種ソフィア会などが独自のオンライン・イベントを開催するなど、あたかも四谷キャンパスで実際に繰り広げられたような、盛りだくさんの1日となりました」

そして、注目されるのは今年のASFです。5月29日に開催される今年のASFはハイフレックス開催といわれています。たとえば、四谷キャンパスでのオフライン企画を、同時にオンラインでも配信するという形。キャンパス内でオフラインで行われる講演会などの様子を、海外も含めて遠隔地ではオンライン配信で聞くことができるというものです。

一方、オンラインだけで行われる企画、またオフラインだけで行われる企画も用意されています。人気企画「Sophians around the world」はもちろんオンラインですが、3年ぶりに復活するメンストでの模擬店は当然オフラインというように、企画によってオンとオフに分かれ、またそのハイブリッド版のハイフレックスが入り混じったASFになるようです。これまでのように、ASFもここにきてまた大きくその形を変えようとしています。



1995年のソフィアンズナウ。ASFの入場者が4,000人に達したと報告しています

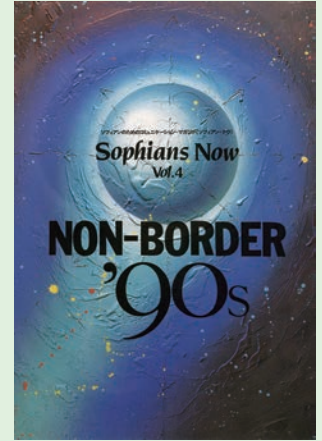


コロナ前は、毎年1万人を超えるソフィアンがキャンパスを訪れていました。いつになったら、このような風景が戻ってくるのでしょうか



2021年のASF。ソフィアンズクラブには、学生や若手ソフィアン達が集まり、オンラインで配信。キャンパスには人がいません

ASFから生まれた「ソフィアンズナウ」

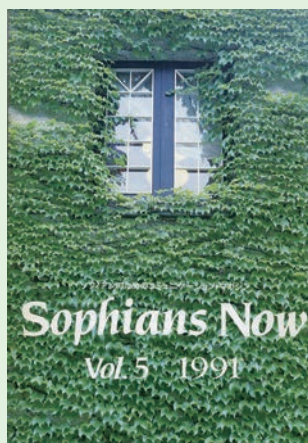
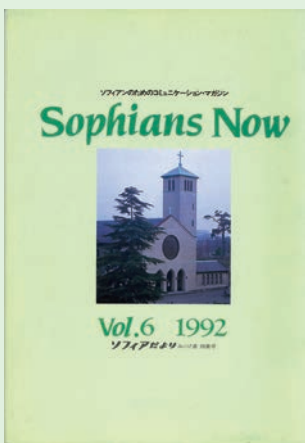


ソフィア会の会報「ソフィアンズナウ (Sophians now)」は、もともと ASF に合わせて発行されたものでした。第一号が出たのは 1987 年。SJ ガーデンで 200 名ほどが集まってスタートした ASF が 10 年を迎えたこの年、ASF 実行委員会が「OB、OG 特集の冊子」としてソフィアンズナウを発行します。

それまでは、ソフィア会事務局が「ソフィアだより」という、折りたたんで定型封筒に入る小さな紙媒体を年に数回発送していましたが、それとは別に ASF 実行委員会が企画発行したのがソフィアンズナウでした。当然、年 1 回の発行でした。

「ソフィアのためのコミュニケーション・マガジン」とのキャッチ付きで、本文 48 ページ・オールカラー。1987 年の創刊号の表 2 (表紙の裏) は日本航空、表 3 (裏表紙の裏) は三菱自動車、表 4 (裏表紙) はコカ・コーラ、その他ケンタッキー・フライド・チキン、味の素、昭和シェル石油、雪印乳業、大和証券、共同印刷など大手企業の広告が入るといって、一般の商業誌にもひけをとらない立派な冊子でした。

当時は、カタカナでは「ソフィアン・ナウ」と表記されていたこの冊子は、同様の体裁で 1992 年まで続きます。この年、それまでソフィア会事務局から発行されていた「ソフィアだより」と合体する形で、新たな体裁の「ソフィアンズナウ」が発行され、それがソフィア会の会報として今日まで続いています。



ASF 実行委員会が「Sophians now」を発行する前は、ソフィア会事務局がこのような定型封筒に入る「ソフィアだより」を発送していました

コロナ禍で延期されていた2020年度および2021年度の銅祝、銀祝、ルビー祝、金祝がそれぞれ2月20日(2020年度)、2月27日(2021年度)に四谷キャンパスで行われました。大学主催行事として銅、銀、ルビーは10号館講堂、金祝は6号館101教室で行われ、これまではASF同日に行われて盛り上がった懇親会は今回取りやめ。式典の出席者はその後設けられた懇親の場で飲食なしで歓談をするという形になりました。

祝典は、卒業15年(銅祝)、25年(銀祝)、40年(ルビー祝)、そして50年(金祝)という節目に卒業生に祝意を表す、上智大学ならではの行事。卒業後なかなか母校を訪れる機会のない卒業生も、大学からの招待を受けて母校に帰り、ラテン語で「豊かな恵みのうちに世の光、地の塩となれますよう、ソフィア・ファミリーすべてが心を込めてお祈り申し上げます」と書かれた祝状を受け取ります。

今回、10:30から6号館101教室と10号館講堂で時間をずらして行われた式典では、各代の卒業生が居並ぶ中、曄道佳明上智大学長、佐久間勤上智学院理事長、鳥居正男ソフィア会会長が登壇。曄道学長が祝辞を述べた後、代表者に祝状と花束が贈呈され、続いて佐久間勤理事長、鳥居会長が祝辞、最後に代表者がお礼の言葉を述べました。

曄道学長は、出席者に祝意を述べたあと「常々、大学の顔は卒業生の顔だと思っています」と大学にとって卒業生が果たす役割が大きいことを強調。佐久間理事長は、それぞれの卒業生が在籍していた時代との対比で、現在の大学の状況を紹介しました。

ソフィア会の鳥居会長は「今日のお祝いが、ソフィア会のスローガンの“つなげよう、拡げよう、深めよう、ソフィアンの絆”の通り、ソフィアンとしての仲間意識が強まり、母校愛が



10号館講堂で行われたのは銅祝、銀祝、そしてルビー祝



金祝は6号館101教室で。ASF同日に行われていたこれまでの祝典に比べて参加者は若干少なかったものの、それでも200人ほどが参加



鳥居正男ソフィア会会長の挨拶。
ソフィア会の活動をアピール

の仲間意識が強まり、母校愛が深まるきっかけになることを心から願っています。これを契機に、ぜひ学部や学科の同窓会に出席され、大学やソフィア会のイベントに参加してください。6号館6階には、皆さんの憩いの場のソフィアンズクラブがありますのでぜひ利用してください」とソフィア会への参加を呼びかけました。

その後、それぞれの代の代表が学生時代の思い出などを交えながら挨拶。最後に応援団・チアリーダーによる祝賀パフォーマンスが行われ、1時間弱で祝典を終了しました。

なお、今回は懇親会は行われませんでした。各祝典に該当する各年代は実行委員会を組織し、今後新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、学内での懇親会を行う予定です。



最後は応援団のパフォーマンス。リーダーは女性



母校の変わりように驚きながら、キャンパスを後にしました



祝状には、ラテン語で「豊かな恵みのうちに世の光、地の塩となれますよう」と書かれています



祝典は1時間弱で終了。いつもは盛り上がるその後の懇親会は、今回は取りやめ。それぞれ学生食堂などで久しぶりの対面

上智大学および卒業生組織のソフィア会では、国連 UNHCR 協会とともに、紛争によって命と生活が脅威にさらされているウクライナ難民の方々への支援として、緊急募金を開始いたします。募金実施によせて、曄道佳明上智大学長、ソフィア会鳥居正男会長のメッセージを掲載いたします。

また、本募金活動で連携させていただく国連 UNHCR 協会の川合雅幸事務局長からは、「現在、ウクライナをはじめとして世界中で起きている人道危機は、決して遠い国々の対岸の火事ではなく、この地球上で共に手を取り合って解決していかなければならない人類の課題であります。

この悲劇のなかで、子ども達を含む多くの人々が傷つき、家族が分断されて避難を強いられる状況に対し、UNHCR のロゴが意味する『人を助ける人の手』が数多く集まることで、一人でも多くの人に寄り添い、誰一人取り残さない社会の実現に近づく大きな一歩になることは間違いありません。上智大学及びソフィア会の皆様方のあたたかい想いと、いのちと人権を守るアクションに心より感謝申し上げます」とメッセージをお寄せいただきました。

以下のリンクより、国連 UNHCR 協会を通じて、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）のウクライナ緊急支援にご寄付いただくことができます。

皆さまのあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

① 以下の URL から寄付ができます。

https://www.japanforunhcr.org/campaign/ukraine?utm_source=sophia-uni&utm_medium=referral&utm_campaign=JA_PS_JA_UA

② 以下の URL から T ポイントなどを使って寄付できます。

<https://donation.yahoo.co.jp/detail/250013>



曄道佳明上智大学長のメッセージ

For Others, With Others

誰のために、誰とともに？ 今こそ小さな一つのアクションを！

上智大学は、平和を愛し人間の尊厳を尊ぶすべての国籍、すべての立場の人々とともにあります。そして、戦争に断固として反対し、一刻も早く平和な、そして健やかで穏やかな日々が、ウクライナの人々の手の中に戻ることを願い、この度の緊急募金を実施します。

「人間社会は正しい方向に進展しているのか？」この疑問に対して、いつの時代にも多くの危惧がありました。発展と信じたものが実はそうでなかったり、成果と思われたものがまだ途上であることに気付いたり、そのような繰り返しの中で、それでも私たちは、正しい社会、誰も取り残されない社会に向けて、地球社会全体が動くものと期待をしてきたのではないのでしょうか。この期待の根底には、本質的かつ普遍的な共通理解があります。それは、いついかなる場合においても、人間の尊厳こそが最も尊ばれるべき人間社会の根本であるということです。

今、この人間の尊厳が容赦なく踏み躪られる現実を、私たちはウクライナの地に目の当たりにしています。歴史の教科書ではなく、映画やアニメーションでもなく、私たち自身が今、地球というその現場にいます。私たちは侵攻、侵略、戦禍、犠牲・・・二度と耳にしたくないと思っていた悪夢の現場の隣人でもあるのです。

For Others, With Others

上智大学が貫くこの教育精神は、人間社会のあるべき根本を謳うものです。ソフィアファミリーの皆さん、私たちは直ちに手を差し伸べましょう。家族との日常が、志に向けて働く機会が、学ぶ機会が、笑う機会が失われたウクライナの人々のために、私たちが共にあることを表明しましょう。彼らが安心して暮らせる日まで寄り添い続けましょう。

私たちの支援は直ちに状況を一変させられるものではないかも知れません。多くの方策の一つに過ぎないかもしれません。しかしまず行動を起こし、私たちのスピリットを具現化することで、ウクライナの人々の痛みに触れる一人となりましょう。

皆さまのご理解、ご協力、ご支援に心より感謝申し上げます。

鳥居正男ソフィア会会長のメッセージ

平和な生活を営んでいた罪のない人々を恐怖にさらし、尊い命を奪う残虐な暴挙が、この 21 世紀に行われていることにただただ驚愕しています。愛する家族と別れ命をかけて必死に母国を守っている姿に胸が痛みます。

国際秩序を揺らす非道な行為を断じて許すことはありません。

しかし、この蛮行を止めることができない憤りと無力感をどこにもぶつけることはできません。私達が今できることは、日々苦難に耐えているウクライナの人々の助けになるように支援をすることだと思えます。この度は、大学の動きに賛同し、卒業生、在学生、ご父母・保証人、教職員というオールソフィアの取組みとして、皆様のご参加を切にお願いいたします。

オールソフィアのクリスマス(ASC) 12月10日、オンラインで開催しました

今年で14回目を迎えるオールソフィアのクリスマス(ASC)が、12月10日(金)19:00より開催されました。今年も昨年同様、コロナ禍のため、オンラインでの開催となりました。ASCで例年お世話になっているアナウンサーの川島葵さんと、上智大学放送研究会(SBC)の鈴木涼馬さん、杉田夏希さんに司会をお願いし、「いのり」と「つどい」で構成される2時間程のプログラムを行いました。

第一部の「いのり」では菅原裕二神父様からのクリスマスメッセージやローマで撮影された動画を視聴した後、事前に募集したソフィアファミリーからのいのりに心を通わせ、神聖で心温まる時間を過ごしました。



第二部の「つどい」では上智大学ソフィア会鳥居正男会長、上智大学嘩道佳明学長からご挨拶をいただいた後、(以下出演順)立石一海(文新)さん、上智大学聖歌隊、L'arbre de Harmonie(ラルブル・ドゥ・アルモニー)、SAfro FAmily(サフロファミリー)、上智大学ハンドベルクワイア、鈴木桃子さん(文社)の、心躍る圧巻のパフォーマンスを楽しみました。

長年ASCの第二部で大人気だったチャリティーブースも、今年はオンラインでの開催となり、NPO法人せいぼ、landOnlysato、The Sophians' Quilt Society、聖母看護学科同窓会にご協力いただき、様々なアイテムを出展していただきました。こちらのチャリティー募金の寄付先は、昨年に引き続きコロナ禍で苦学する学生支援に充てられます。

第3回ザビエル杯日本語スピーチコンテスト オンラインで12月4日に開催しました

3回目を迎えた、日本で学ぶ留学生による日本語スピーチコンテスト「ザビエル杯」が2021年12月4日(土)オンラインで開催されました(主催:ソフィア会国際委員会)。大学の枠を超えて留学生を応援し、国際的な文化交流を深めてほしい、という主旨で、今年は6つの大学・6カ国からの10名(うち1名は上海からの参加)が本選に進みました。

スピーチのテーマは「コロナ禍で見つけた私のニューノーマル」、「10年後のなりたい自分の姿」のいずれか。この2年近くは来日もままならず思い描いていたとは異なる留学生生活を強いられた中、どの学生も自分と向き合い、夢や将来についての考えを深めていることがうかがえました。オンラインの小さな画面の中から前向きな大きな思考や広い視野で夢や将来を思い描いていることが伝わってきました。

審査の結果、今回は以下のようになりました。

- 1位 ムフタザル・イルハム・ユディスティラ Muftazar Ilham Yudhistira (関西国際大学、インドネシア)
- 2位 トウ・ヘイタク TONG BINGZE (立教大学、中国)
- 3位 ソン・タクキン SUN ZEXIN (上智大学、中国)



審査員特別賞 グエン ティ キム ガン (産業能率大学、ベトナム)
TANDOOR賞 シュシュアナン

ZHU XUANNAN (上智大学、アメリカ)

参加賞 そのほかの出場者

第1回目からご協力いただいている立教大学からも記念品が贈られました。

1位のイルハムさんは発表の際、感激のあまり泣き崩れ画面から一瞬消えてしまいました!改めておめでとうございます。

審査員は以下の方々でした。

鳥居正男様(上智大学ソフィア会会長)、永井敦子様(上智大学副学長)、スヌエンドリニ・カクチ様(日本外国特派員協会会長)、小坂文乃様(立教大学校友会副会長、松本楼社長)、チャンダー・メハラ様(Indian Restaurant TANDOOR オーナー)

過去2回の審査員、元ラグビー日本代表の大野均さんと、スピーチコンテスト参加から国際委員となり活躍中の安星(アンセイ)さん(2018法地)からも激励のメッセージが届きました。

皆さんが今後の生活を通して、それぞれの国と日本との架け橋となり、世界で活躍されること、このコンテストをきっかけに留学生の皆さんが交流を深め、来年は上智のキャンパスで再会できることを願っています。

学生へ課外活動支援金(後期追加支援)135万円を贈呈

ソフィア会は3月16日(水)16時から学内ソフィアンズクラブにおいて、学生課外活動支援金(後期追加支援)の贈呈式を実施しました。今回支援金を贈呈したのは、体育団体連合会、音楽協議会、演劇協議会、アメリカンフットボール部、Sophia Refugee Support Group、ロシア語劇の6団体とロエル マクシミリアン・トモヒロさん(国際教養学部4年)、柳美海子さん(理工学部3年)、福田信斗さん(理工学部3年)の3名です。

受賞した団体は、コロナ禍の中で組織全体の実質的な総括、取りまとめの活動を活発に行い、課外活動を継続的に実施できるように努めてきたこと、1部リーグへの昇格、ロシア演劇がロシア国立芸術史研究所に上演記録として登録されたことに対し、また、個人の3名は学外や他大学との交流による活躍に対しその功績が評価されました。

当日は大学側から福武学生センター長、ソフィア会からは鳥居会長はじめ関係者が出席、鳥居会長がひとりひとりに目録を手渡しました。

受賞者を代表して、Sophia Refugee Support Groupのマシャリめぐみさん(国際教養学部3年)から謝辞がありました。



「SRSGは難民支援を行う団体で、拘置所訪問や入国管理局や病院での検診への難民案内、就職支援等を実施しています。コロナ禍で資金確保に苦労していたので活動支援金をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。この支援金を有効に活用させていただきます。」

学生課外活動支援金は大学への貢献を掲げるソフィア会の主要な取り組みのひとつで、2021年度予算として1000万円を計上、すでに2021年7月22日(木)、体育会41団体に600万円、文化系23団体に265万円を贈呈しています。

ファミリーマート副会長 澤田貴司さん講演会レポート - 「やりたいことをやる」

1月26日(水)18時から、上智大学とソフィア会が主催する講演会「経営者に聴くシリーズ第4弾で、ファミリーマート代表取締役副会長(当時)の澤田貴司さんにお話しいただきました。テーマは「やりたいことをやる」。久しぶりに対面とオンラインのハイブリッド形式で行う予定でしたが、残念ながらオミクロン株が猛威を振るっているため、オンラインのみに変更しての開催となりました。

澤田さんは、学生時代は体育会のアメリカン・フットボール部のキャプテンで、部活のメンバーからの信頼は厚く、まわりから憧れられる存在でした。

卒業後は、伊藤忠商事に入社。入社2年目からニューヨークに行くことになり、まずは絶対に英語をモノにして帰るんだと決意。そのために、アメリカ人に囲まれて仕事をできる環境の所に転勤してもらいました。営業担当として売り上げを3倍にまで拡大します。

その後、「これからの商社は従来のトレード中心のビジネスだけではなく小売関連事業への思い切った参画が必要だ」と、社長に直談判しましたが思うに任せず、退職。

そして、そのころまだ山口県で売上約350億円ほどだったファーストリテイリング(ユニクロ)に入社。現場に立たせてほしいと頼んで店長を経験します。フリースを爆発的なヒット商品にしたのは、実は澤田さんです。現場起点での改革を高く評価され入社半年で副



社長になり、その後社長を打診されるも、辞退して退職。ご自身でファンドを立ち上げることにしました。

小売業界の大変革期にダイエーの経営再建案件にも携わる中で、利回りを優先せざるをえない側面を持つファンドに対し、「自ら事業を育てたい」との想いの葛藤もあり、経営改革を支援する会社を起業することにしました。

その後、古巣の伊藤忠商事から、ファミリーマートの社長を依頼を受け社長となって様々な変革を試み次々に実行、現在は副会長。2022年の今年2月に退任すると決めました。次は、医療再生のベンチャー企業の役員になることが決まっています。

終始一貫、やりたいことをやってこられた澤田さん。「そのエネルギーの源泉は何ですか」という質問には、「自分で決めたことを必ず実行する。それが自信になる」とお話しされます。「やれなかったらカッコ悪い」と自分に厳しく、澤田さんの「美学」を感じました。

約400人の参加申し込み者から、事前質問だけでも50以上、講演中もたくさんのご意見や感想などが寄せられました。とにかく「やりたいことをやるに尽きる」と力強く語られ、人のせいや、周りのせいにせず、「やりたいことにコミットし、やりきることが自己成長につながる」と、参加した学生たちも勇気づけました。

ソフィア会は3,300人の新会員を迎えました - 2021年度学位授与式

上智大学は3月28日(月)、東京・有楽町の東京国際フォーラムのホールAにおいて、2021年度の学位授与式を学部・学科別に午前と午後の2部制で開催しました。これにより、ソフィア会は新たに、約3,300名の新会員を迎えました。

新型コロナウイルス感染拡大により、2019年度の学位授与式は中止。昨年2020年度は卒業生だけに限って対面での授与式を行いましたが、今年は父母・保証人も1名に限って入場可能となり、その他の方はYouTubeのライブ配信を見するという形になりました。

午前午後とも、式典はカトリック・イエズス会センターのホアン・アイダル神父による祝福でスタート。曄道佳明上智大学長が式辞を述べた後、学位記・修了証書の授与が行われ、各学部の学士代表、研究科の代表が登壇、それぞれ学位記・修了証書を受け取りました。



鳥居会長が祝辞

その後、佐久間勤上智学院理事長の祝辞に続き、ソフィア会の鳥居正男会長が「新型コロナ感染への対応を通じて、日本の直面する多くの課題が浮き彫りになりました。国際社会での地位が低下し、国の将来は



東京国際フォーラムでの学位授与式

不透明で、デジタル化の遅れなど、課題は尽きません。グローバル化の流れから取り残されないためには、若い皆さんの活躍が大きなカギを握ります。「卒業」という漢字の意味は「学業を終える」ですが、英語ではgraduationかcommencementと呼ばれます。Commencementは「始まり」を意味します。皆さんは今日まさに「学びの始まり」の瞬間に身を

置いているのです。上智大学での学びを、一生続く学びのスタートとして、社会にはばたいていただくことを心から願っています」と、卒業生にエールを送りました。

続いて、卒業生代表が謝辞を述べた後、上智大学が2009年から行っている学長表彰が行われ、3団体1名に賞が贈られました。

式典終了後はそれぞれ四谷キャンパスの教室で学科・研究科・専攻科別集會が行われ、その後は別れを惜しむように学内のあちこちで写真撮影や恩師、友人と語りあう姿が見られました。当日はソフィアズクラブも開放され、多くの卒業生が訪れていました。



1号館廊下は人気の撮影スポット

ソフィア会はマスコミ・ソフィア会と共催で(上智大学後援)、1月25日(火)17:30 から第30回コムソフィア賞の授賞式と記念講演会を学内2号館17階の国際会議場で行いました。

▶ 授賞式は対面で

第30回という記念すべき今回のコムソフィア賞を受賞されたのは、キャスター・ジャーナリストの長野智子さん(1985 外英)と浪曲師の玉川奈々福さん(1987 文国)のお二人。

長野さんは卒業後フジテレビのアナウンサーで活躍、その後アメリカで「メディア環境学」を学び、帰国後はジャーナリストとして活躍。2019年からは難民の救済活動を展開している国連UNHCR協会の報道ディレクターとして救援活動と呼び掛けています。

玉川さんは卒業後、出版社勤務の傍ら日本浪曲協会主催の三味線教室に参加。二代目玉川福太郎に入門し三味線の曲師として修業、2001年より浪曲師として活動。さまざまな浪曲イベントをプロデュースするほか、平成30年度文化庁文化交流使としてイタリア、ポーランドなど7か国で講演。第11回伊丹十三賞受賞。

当日は上智大学の浬道佳明学長やソフィア会の鳥居正男会長など限られた関係者が国際会議場に集まり授賞式を行った後、長野さんが「小さな声を大きな声に」のテーマで講演、続いて玉川さんが浪曲「仙台の鬼夫婦」を実演しました。

▶ 難民キャンプで知った小さな声を伝える大切さ—長野さん講演

まず長野智子さんが記念講演を行いました。テーマは「小さな声を大きな声に」。

長野さんはTVアナウンサー時代に、人気バラエティー番組「オレたちひょうきん族」の“ひょうきんアナウンサー”として一世を風靡したものの、次第に「これは本当に自分のやりたい仕事ではない」と思うようになります。

そこで32歳の時、アメリカのニューヨーク大学の大学院で改めて5年間勉強。大学院のメディア環境学で学んだのは「自分自身が人と事象との仲介物(メディア)であるならば、その仲介物が大きな声ばかりでなく、小さな声も大きく社会に響くそのような存在になりたい」という思いだったといいます。

37歳のときにテレビ復帰。テレビ朝日の報道番組で、現在の長野さんを形作る大きな事件が起こります。2001年9月11日の、イスラム過激派テロ組織アルカイダによって行われたテロ攻撃「同時多発テロ」でした。その時訪れたパレスチナの難民キャンプで「子供たちがキャッキョッと踊っていたのです。テロで多くの人が亡くなったのよといったら、ここでも罪のない人が毎日何人も殺されている」と。

「日本ではアメリカ中心のニュースばかりが流されていましたが、それだけではメディアとして事象を伝えることにはならない」とし



て、とにかく現場に足を運ぶというスタイルを築いてくれました。

今のUNHCRの仕事をやろうと思うようになったのも、難民キャンプでの取材

が元になっているようです。「難民キャンプの子供たちに一番欲しいものは何と聞いたら、教育という言葉が返ってきました。教育で自分たちの夢がかなえられる。日本で育った自分たちには考えられないことだと思いました」という思いが、現在のUNHCRの報道プロデューサーの原点になっているとのことでした。

▶ 国際会議場が浪曲の舞台に—玉川奈々福さん

若干の休憩をはさんで行われた玉川奈々福さんの浪曲実演。2号館国際会議場のそのステージは、中央には急遽しつらえた演台。そして、上手には三味線の曲師が座るといって、完全な浪曲の舞台となりました。

演台に立った奈々福さんは「実演の前にちょっとお話をしたい」として、いつも質問されるという「上智を卒業して、なんで浪曲師になったのか」への答えから。浪曲は、自らめざした道ではなかったようです。

「大学を卒業したときは特にこれをやりたいという気持ちもなく、大学近くの小さな出版社に入りました。その後、新潮社、筑摩書房といくつかの出版社で働きましたが、途中で、本当にこれでいいのかと迷うようになり、いくつかの習い事を始めることに。

そのひとつに、三味線教室があったのです。しかしこれは、若手の曲師発掘を目指して浪曲協会が行っていた教室でした。案の定、途中でその後師匠となる浪曲師、二代目玉川福太郎に「家に来て稽古しないか」と声を掛けられ、そのまま曲師への道へ。その後、浪曲師への道へ。

時折、小学生相手に浪曲のワークショップをやることもあるようです。

「小学生に日本の伝統芸能を知っている人、と聞くと、さっと手が上がります。歌舞伎、能、狂言、そして相撲なんて挙げる人もいます。そのほか落語、講談など、だいたい10ぐらいの伝統芸能が上がります。しかし海外に行って知ったのは、海外では日本の伝統芸能のようなものがほとんどない。オペラとはバレエとかあっても、それはどこの国にもあります。独自の、日本の歌舞伎、能のようなものがあっても、時代の流れの中でどんどん新しいものに移り変わっている」

伝統芸能を大切にしよう、という気持ちが芽生えたところで、いよいよ奈々福さんの実演。

演題は「仙台の鬼夫婦」。「妻がダメな夫を叩き直すという話なんです」と簡単に説明してくれました。「ダメな夫を、武術を通して妻が立ち直らせていくという、いわゆる賢妻の読物」のようです。

主人公であるお貞という妻は、薙刀の名人。途中で、薙刀の石突のところまで夫をぐっと抑え込むシーンが。これは海外公演にも持って行った演題で、スロベニアでやったところ、石突で抑え込むこの場面で「ブラボー、ブラボー」と声がかかったといいます。

奈々福さんは人気浪曲師だけあって連日数多くの舞台をこなしていますので、スケジュールを確認し、ぜひ実際の舞台でその世界を体感してください。

コムソフィア賞とは

マスコミ・ソフィア会は1991年、上智大学の卒業生や学生、教職員を対象に、メディアや国際社会、地域社会に貢献し、優れた業績を上げた人を表彰する制度にコムソフィア賞を設けました。選考基準は①国際社会、地域社会に貢献した優れた人物、②国際報道、日本紹介に優れた業績を挙げた人物、③マスコミおよび各種メディアに顕著な貢献が認められる人物、としていますが、現在は、ソフィア会と共催(上智大学後援)、マスコミに限らず社会貢献など幅広い分野の方を表彰しています。2021年度に30周年を迎え、これまで50名の方を表彰してきました。

ソフィア の 広場

長らくコロナ禍の下で登録団体の幹事の皆さまは会の運営にそれぞれ頭を悩ませておられますが、参加は自己責任の判断でということと対面の会合を持ったソフィア会はやはり盛り上がったようですね。Zoomによる開催が多いわけですが、皆さまオンライン開催にもお慣れになったということでしょうか、結構楽しめたようです。

なお、誌上では全部ご紹介できませんが、講演会、セミナー、上映会などをオンラインで行っている団体さんもあります。ソフィア会のホームページをご参照ください。

海外ソフィア会 44か国63都市に！

アイルランド・ソフィア会

開催日：2021.11.06

9月からダブリン DCU に交換留学中の倉澤理子さん（外葡3年）と谷内田陽菜さん（文英3年）のお二人の歓迎のため、アイルランド・ソフィア会メンバーとファミリーが集まりました。ホームパーティーは、2020年の正月以来。とても久しぶりです！

料理やケーキを持ち寄って、前アイルランド・ソフィア会会長の Walker 美津枝さんのご家族、来年4月に入学が決まったばかりの未来のソフィアンも参加して、とても賑やかな楽しいひとときでした。



サンパウロ・ソフィア会

開催日：2021.11.25

サンパウロ市内の半オープンエアのブラジル料理レストラン PATEO SABOR PAULISTA で親睦会を開催。まだまだコロナ感染の不安もあるため、あくまで任意・自己判断での参加とし、総勢8名のこじんまりとしたお食事会となりましたが、当地に赴任された会員の初参加や二年近くぶりの再会もあり、4時間半を超えて盛り上がりました。

約80名程在籍するサンパウロのソフィアンズとそこそこの家族の交友を深めることのできるよう、2022年は定期的にオフラインの食事会・イベント等が開催できる状況になることを心から祈っております。



シドニー・ソフィア会

開催日：2021.12.07

シドニー近郊の中華料理店で恒例の忘年会を開きました。9人が参加し、辛味の利いた四川料理に舌鼓を打ちながら、親交を深めました。コロナ禍によるロックダウンの影響で、ソフィア会の開催は1月以来となりました。

豪州在住のソフィアンのご参加をお待ちしております。豪州を訪問するソフィアンも近くにお寄りの際には一声掛けてください。



LAソフィア会

開催日：2022.02.26

コロナ禍がいつまで続くかわからない中やっと重い腰を上げ、先輩方のご協力を頂きながら遂に2年ぶりのソフィア会をオンラインで開催しました。ソフィア会から頂いたLAソフィア会の旗も初披露。東京に帰国された大先輩のご夫婦からサンディエゴ留学中の現役大学3年生2名を含む参加者12名。久しぶりに顔を合わせて懐かしい会話が飛び交いました。留学中の穴山結子さんと手計麻菜さんには自己紹介、従来のメンバーの方たちは近況報告。1時間半ほどでしたがオンラインでもやってよかった！と感じられました。参加者の皆様からもとても楽しかったとのことのお言葉も。



ソフィアの 広場

英国ソフィア会

開催日：2022.03.21

コロナ禍により2年の長きに渡り、交流の機会を持てませんでした。規制撤廃後すぐロンドン市内ケンジントンにある商業施設バンテクニコ内内の北欧料理店にて親睦会を開催。個室にて遅い時間まで会話が弾みました。次回ソフィア会は、初夏の予定です。



ワシントンDCソフィア会

開催日：2022.03.25

さくらが満開のワシントンDCで、8名の方々の参加を得てハッピーアワーを開催しました。参加者の皆さまの在学時期や学部学科はさまざまでしたが、そこはソフィア同士、世代や職業を超えて和気あいあいと、楽しい時間を過ごすことができました。ワシントンDCでは、学校や図書館等一部の例外を除き、室内でのマスク着用義務が今月から解除され、少しずつコロナ前の生活に戻りつつあります。このままコロナが終息方向に向かい、また近い将来、皆で集まれる機会を楽しみにしています。



ニューヨーク・ソフィア会

開催日：2022.04.02

コロナ禍が落ち着きかけてるとはいえ予断を許さない状況下で再びオンラインにより第58回年次総会を開催しました。我謝京子会長(87外西)の挨拶に続きエドガー鮎美さん(09比比)の司会で総会が始まり、会計報告に続いて役員人事が承認されました。

アドバイザー役の篠崎晃さん(60外西)の乾杯の音頭のあとは、参加者の自己紹介。続いて松本博子副会長(80外英)に米連邦準備銀行のニューヨークでの仕事に関する講演をお願いしました。ニューヨーク・ソフィア会のさらなる発展を期待できる思いで会を閉じました。



バンコク・ソフィア会

開催日：2022.03.19

和食店「味匠」にて懇親会を開催。席上、国際委員会の辻政弘様(84外英)より、会旗が贈呈されました。当会は定期総会を兼ねて1月と11月の年2回懇親会を開催していますが、コロナ禍の影響で過去2年間は開催が見送られています。今回の懇親会は旗の「贈呈式」も兼ねて、定期総会の招集ではなく参加は個々の会員の判断に委ねましたが、当日は日本からのゲスト数名も含め、20名近くの出席となり大いに盛り上がりしました。



サンティアゴ・ソフィア会

開催日：2022.03.25

当地は夏も過ぎ初秋の季節。コロナ禍も落ち着きつつあり日常に戻ってきています。今回の会合はコロナ後の開催第二弾で、出口さんおよび泉さんの送別会を兼ねての開催となりました。お二方がチリを離れることで寂しくなりますが、他方新たに井上さん、千田さんが加入くださいました。引き続き、会を盛り上げていきたいと思っております！



国内ソフィア会 46都道府県76団体

板橋ソフィア会

開催日：2021.10.31

第27回総会をオンライン(Eメール配信)にて開催しました。期日までにどなたからも議案についての反対意見の表明がありませんでしたので、2020年度決算報告書案及び2021年度役員候補は承認されました。次回の第28回総会・懇親会は、例年どおり7月の第一日曜日(7月3日)に開催できればと思っております。

埼玉西部ソフィア会

開催日:2021.11.14

総会並びに秋の散策会を開催しました。当日は西武池袋線「飯能駅」に13:00に集合し「あさひやま展望公園」へ紅葉を楽しみながら展望台まで1.5h程度の散策を行い、展望台にて記念撮影。総会は15:00より割烹「やまなか」にて開始し、参加者は13名でした。今年も役員中心の総会となりましたが会員の皆様と久しぶりの懇談が出来ました。そして中締めには上智大学校歌を全員で少し声高らかに斉唱しました。皆様、ご苦労さまでした。そしてありがとうございました。



足利・佐野・栃木ソフィア会

開催月日:2021.11.14

足利市内の「あしかがフラワーパーク」にて、総会を開催。総会案件(活動報告、収支報告)は全て承認されました。総会后、植木安弘先生をお招きして、「国際社会の変動と分断、人間の安全保障」をテーマにご講演いただきました。国連を中心に数多くの現場を経験された立場からの貴重でかつ分かりやすいお話は、予定時間を若干過ぎても好評でした。その後、場所をパーク内のレストランに移して、懇親会。初参加の会員を含めてそれぞれ近況報告を語りながら進行し、最後は参加会員全員で校歌を歌い、多数の人が行き交うイルミネーションの中、散会しました。



とちぎ帯広ソフィア会

開催日:2021.11.20

北海道十勝地区のとちぎ帯広ソフィア会の総会が開催されました。今回から新たな入会者も加わり、万全のコロナ対策の下で13名が参加しました。30代から80代まで幅広い世代が集まり、年に一度の集まりを楽しみました。



さいたまソフィア会

開催日:2021.12.04

コロナの感染対策にも配慮しつつ、大人の遠足(第5弾)を開催。埼玉や近隣のソフィアンとその知人23名が参加し、年末の気忙しい中、桶川を散策し、桶川の歴史を学ぶことができました。見学したのは中山道桶川宿の常念寺、木戸跡、宿場館他の歴史的建造物、旧陸軍飛行学校の桶川飛行学校平和祈念館および桶川市歴史民俗資料館の縄文時代から近世までの豊富な展示資料で、これは館長から直接解説をいただきました。



岩手ソフィア会

開催日:2022.02.13

今年度の総会と、ソフィアンによる講演会をZOOMによる完全オンラインで開催しました。今回会員の皆様にご案内したところ、80代から20代まで、幅広い年代の会員約30名がご参加くださったほか、大学とソフィア会からも多くの皆様にご参加いただきました。

来賓として参加くださった隣道学長、ビデオメッセージをくださったソフィア会鳥居会長、岩手県内をはじめ各地で手掛けられているバス事業のお話などを分かりやすくご紹介くださった松本順さま(法法84)に感謝申し上げます。



アルプス・ソフィア会

開催日:2022.03.26

コロナ対策をとって3年ぶりに総会・懇親会を松本市のホテルモンターニュで開催。会員19名と、来賓の上原ソフィア会組織委員長、杉浦千曲川ソフィア会会長、森同会副会長、橘田山梨ソフィア会会長のご参加をいただきました。ご来賓挨拶等の後、山崎会長より今年9月24日に松本で開催が予定されている地域ソフィア会全国大会信州大会の現状と内容について説明されました。

総会後の懇親会では初めて総会に出席する2名の方も含めた全出席者の近況報告が行われました。



各種ソフィア会 151団体

井上英治先生ゼミ OB・OG 会

開催日:2021.11.03

今回で17回目となる井上先生のお墓参りを有志6人で行いました。その後、日本青年館内のカフェでお茶を飲みながらお互いの近状を報告しつつ、皆で語り合いました。今回は初の試みとして、参加できなかったOB・OGをオンラインでつなぎ、途中少しだけ参加してもらいました。この試みは来年も続けるつもりです。

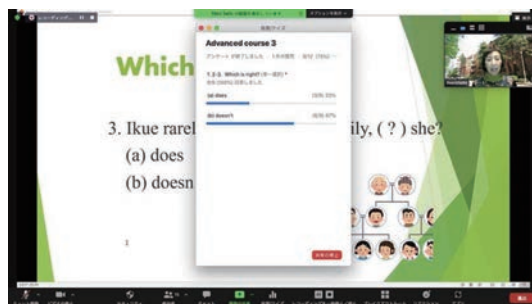


SPEECC ソフィア会

開催日:2021.11.21

ZOOMで「SPEECC 英文法 LIVE (ライブ)」を実施。日頃コミュニケーションで使われる英語表現を2択のクイズ仕立てにしたイベントも今回で3度目になりました。

配信の質的な面においてはまだまだ改善の余地があるものの、「コミュニケーションにこそ英文法を活かすべき」という方向性は間違っていないと確信できました。今回のイベントの様子はYouTubeで12月の中旬以降から1問ずつ動画配信していくことになっています。興味のある方はぜひ「SPEECC」で検索をお願いします。



上智不動産ソフィア会

開催日:2021.12.02

恒例の忘年会兼クリスマス会を開催しました。一次会は我々が四谷の「グリルダイニング エラバ」で、二次会はバルの二階の「嘉賓」で。久しぶりに直接会うメンバー同士で、近況報告や仕事の話、来年少年の会の運営に関する事など、オンラインではなかなか本音で語れない話をする事ができました。



上智不動産ソフィア会では、コロナ禍の状況にありながらも、オンラインにて毎月、情報交換会を開いております。また同様に、季節行事や大学不動産連盟活動なども「できる形で」行っており、従来に引き続き「ビジネスにつながる不動産ソフィア会」を目指してメンバー間の積極的な交流を図ってまいります。不動産業界に関わるソフィアの皆様、ご入会をお待ちしております。

マスコミ・ソフィア会

開催日:2021.12.08

太平洋戦争開戦から80年後のこの日にソフィアズクラブで「講演会とクリスマス会」を開催することが出来ました。講演会は、今夏にUNESCOの世界文化遺産に登録された「縄文文化の温故知新」をテーマに、『縄文道』の提唱者で本会の常任幹事でもある加藤春一さん(68経経)が1時間にわたってわかりやすく、かつ、熱く語って下さいました。

「クリスマス会」はソフィアズクラブの「酒食禁止」がまだ解除されないため、お隣の「ホテル・ニューオータニ」のアーケード階にあるピッツァカフェ「トムCAT」での開催となりました。講演会に参加した方のうち19人が出席して、飲み放題食べ放題の2時間を堪能しました。



金祝燦燦会が活動案内ビデオを公開

金祝燦燦会はソフィア会の登録団体で、今年創立10周年を迎えました。金祝を終えたソフィアンの会員数は約400名。大学を出てから50年経っていることが入会の条件で、そのような同窓会が活発に活動しているのは世界でも大変珍しいといわれているようです。

燦燦会は「他者のために、他者と共に」という大学の教育理念を、「他者」を「留学生」に置き換えて活動しており、第1回「教皇フランシスコ来学記念表彰」を受賞しました。デジタルツールを積極的に利用し、毎月の会議のほか、最近では秋冬俳句コンテストの表彰式もZoomにて開催しました。

このたび、金祝燦燦会はその活動を広く知っていただくため、YouTubeに動画をアップしました。



卒業して50年経って入会できるソフィア会の登録団体
上智大学金祝燦燦会

上智大学の同窓会「金祝燦燦会」をご紹介します。所要時間は約10分です。ごゆっくりお楽しみください。

追悼

通知を頂いた方々のお名前と卒業年次・学部学科を掲載し、故人のご冥福を祈るとともに同窓生各位にお知らせいたします。

2021年10月～2022年3月届出(敬称略)

卒年	学科略称	氏名
1949	専 経	黒田 敬文
1952	文 哲	青山 和美
1952	文 哲	久野 勉
1953	文 哲	藤岡 和滋
1953	文 哲	井上 英治
1953	文 英	八木 優
1953	文 新	高城 三郎
1953	聖母短厚	高田 万里
1955	文 哲	地主 敏夫
1955	文 独	宮井 純二
1955	聖母短厚	渡辺 効子
1956	文 新	太田 隆紹
1956	院前西史	牛込 源晃
1958	文 史	川本 隆治
1958	文 新	簗口 通明
1958	経 経	寺嶋 信
1959	文 新	小嶋 康弘
1959	経 商	小山 英輔
1959	経 商	松本 浩二
1959	外 仏	大角 義郎
1960	文 新	吉野 拓男
1960	法 法	渡辺 一郎
1960	経 経	福田 昭壽
1960	経 経	佐藤 隆司
1960	経 経	田名 利之
1960	外 西	中北 泰雄
1961	法 法	稲垣 宗一郎
1961	外 英	福武 啓一
1962	文 哲	三浦 功
1962	文 哲	徳上 全臣
1962	経 商	新名 信雄
1962	経 商	三枝 博
1963	文 教	山本 和子
1963	聖母短厚	菊池 八重子
1964	文 哲	平野 一夫
1964	文 独	松崎 洋子

卒年	学科略称	氏名
1965	文 哲	亀浦 芳孝
1965	経 経	石島 輝海夫
1965	経 経	成実 正俊
1965	外 露	中井 まりえ
1966	文 哲	川又 巳三男
1966	文 史	立花 寛子
1966	文 国	浦 豪信
1966	文 独	波多野 勢津子
1966	外 英	奥村 直司
1966	外 仏	荻田 久次郎
1966	理 物	間野 暉司
1966	理 化	斉藤 祐司
1966	理 化	田中 健二
1966	理 化	金井 勝彦
1967	理 物	長堀 進
1967	理 化	須藤 忠四
1968	文 史	円城寺 康男
1968	外 英	月崎 紘一
1969	外 英	檉田 佳代子
1969	理 物	木村 太郎
1970	文 独	川村 澄子
1970	法 法	新井 満
1970	法 法	衣笠 泰司
1970	経 経	岡本 悦夫
1970	経 経	竹内 哲次郎
1970	理 機	阿部 繁
1970	理 機	浅見 金次郎
1970	理 物	有賀 幸男
1971	文 哲	西田 正
1971	法 法	稲葉 和敏
1971	法 法	竹下 万里
1971	法 法	横山 豊
1971	外 英	辻 恭平
1971	外 独	大嶋 美知子
1971	外 葡	伊志嶺 廣
1971	理 機	岡 秀雄

卒年	学科略称	氏名
1971	理 機	寺嶋 幸穂
1972	外 英	生田 和之
1972	理 機	川瀬 光郎
1972	理 化	寺崎 敏行
1973	文 英	上田 博明
1973	文 社	野口 純一
1973	経 営	飯島 誠
1973	外 西	鈴木 昭一
1974	文 新	友藤 直美
1974	外 西	小山田 衛
1974	理 電	篠崎 了
1975	外 英	久保田 広美
1975	理 化	沢 宣昭
1976	文 史	小村 いつよ
1976	外 英	平間 善雄
1978	文 哲	金田 節子
1978	理 機	岡部 眞幸
1979	経 営	飯塚 陽一
1980	神 神	井上 満洲子
1980	経 経	澤田 俊
1982	文 心	西村 左紀子
1982	文 英	宮脇 正孝
1982	外 英	松永 弘之
1982	理 化	高野 哲男
1983	外 独	首藤 万千子
1985	法 法	岡崎 幹男
1985	外 仏	高山 貴久子
1988	神 神	場崎 洋
1988	外 英	鈴木 聡
1990	理 数	金子 佳夫
1992	聖母短看	工藤 優子
2001	文 英	北井 夕子
2001	外 葡	水谷 絵美
2004	外 英	水足 真人
2010	理 機	河野 寛和
2011	外 仏	兼間 和平

新ソフィア会ウェブマガジン「#メンスト」を公開しました

ソフィア会は卒業生のためのウェブマガジン「#メンスト」を開設・公開しました。

「#メンスト」は上智大学の今や昔、そして今後の取り組みなどの情報発信を行うほか、ソフィア会と卒業生の「繋がり」の場となる新しいプラットフォーム。上智で仲間たちと過ごしたあの場所、あの時間。ふとした瞬間に蘇るキャンパスでの思い出。「#メンスト」は、そんなソフィアンの「ふとした瞬間」にふらっと立ち寄れるような、そんなウェブマガジンを目指します。

キャンパス内の変化や意外と知らない上智の豆知識、今日あった何気ない出来事の紹介のほか、ソフィアンの皆さんの思い出の写真

やエピソードも発信。皆さんからの「あの場所、今どうなってる?」といった取材リクエストも大歓迎です。

ソフィア会とソフィアンで一緒に作っていくウェブマガジンですので、ぜひお気軽に覗きにきてください。

#メンスト

<https://sophiakai.net/mensuto/>



「ソフィアンズカップゴルフ大会」(第27回)は9月5日です

「ソフィアンズカップ」は9月5日(月)、千葉県佐倉市の麻倉ゴルフクラブで行います。今年27回目を迎えるソフィア会公式行事です。



なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、懇親会・表彰式は実施せず、ゴルフプレーのみの開催とします。状況によっては中止する事もあり得ることをご理解ください。

麻倉ゴルフ倶楽部 <https://www.asakura-gc.jp/>
〒285-0077 千葉県佐倉市内田 670

2022年度の金祝などの式典を延期します

毎年5月最終日曜日にASFに合わせ大学主催行事として行っている金、ルビー、銀、銅祝の各式典は、コロナ禍が収束し、飲食を伴う祝賀会の開催案内ができる見通しが整うまで延期となりました。今回は2022年度の金祝(1972年卒)、ルビー祝(1982年卒)、銀祝(1997年卒)、銅祝(2007年卒)。2022年度秋季の開催を予定していますが、開催日(開催案内時期)は未定です。

スマホで簡単登録

皆様のメールアドレスをソフィア会に是非ご登録ください

会員番号、名前、卒年、学部学科、メールアドレスの5つのみの入力です。ソフィアンズナウ郵送先変更を希望される場合には、住所もご登録ください。

ソフィアンズナウ宛先下に記載されたソフィア会会員番号(7桁数字)をお手元において右のQRコードから操作



* PCからの登録は下記から

<https://www.sophiakai.gr.jp/mailreg/>

オリンピック・パラリンピック支援特別委員会解散のお知らせ

オリンピック・パラリンピック支援特別委員会は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結した上智大学のオリンピック・パラリンピック関連事業を支援し、社会貢献と会員交流を推進する活動を6年3カ月余り実施してきました。また、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」だけでなく、「ラグビーワールドカップ2019」と「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」についても地域の活性と地域ソフィア会との連携のために支援する活動を行ってきました。

ワールドマスターズゲームズ2021大会開催が2026年以降に再延期されることを受け、当委員会は2022年3月31日に解散することとしました。これまでの委員会活動へのご協力に感謝します。

2022年度 ソフィア会年間スケジュール

2022年	4月 1日(金)	学部・大学院・助産学専攻科入学式
	5月21日(土)	春季全国代議員会(オンライン)
	5月29日(日)	All Sophians' Festival (ASF) 2022(対面/オンライン)
	7月 1日(金)	上南戦(～7/3)
	8月 2日(火)	オープンキャンパス(～8/3)
	9月 5日(月)	ソフィアンズカップ・ゴルフ大会(麻倉ゴルフ倶楽部)
	9月20日(火)	9月学位授与式
	9月21日(水)	9月入学式
	9月24日(土)	地域ソフィア会全国大会(信州大会)
	10月 8日(土)	秋季全国代議員会(開催方式未定)
	11月 1日(火)	ソフィア祭(～11/3)
	12月 3日(土)	ザビエル祭
2023年	2月上旬	一般入試期間
	3月28日(火)	学位授与式

訃報 (2021年秋～2022年春)

※敬称略

12月18日逝去	ルートヴィヒ・アルムプスター	上智大学名誉教授(元文学部教授)
12月23日逝去	ダニエル・コリンズ	上智大学名誉教授(外国語学部)、元上智短期大学学長
12月25日逝去	土谷 遙子	上智大学元専任教員(比較文化学部比較文化学科)
1月18日逝去	佐藤 源貞	上智大学名誉教授(理工学部電気電子工学科)
3月26日逝去	松本 栄二	上智大学名誉教授(文学部)
3月31日逝去	リーゼンフーバー・クラウス	上智大学名誉教授(文学部)